

日本統治時代台灣之學校行事和校歌之考察

申 育誠

東北大學教育學研究科博士生

摘 要

本研究是調查及分析,從日本統治初期至日本戰敗期間,考察 50 年的初等學校的學校行事和校歌。首先,考察日治時期之學校行事和校歌主要培育何種國民性格,藉此理解同化教育的內涵為本研究目的。學校行事,特別是朝會在初等教育所扮演何種角色之問題,對於同化教育的實施方面有何意義呢?本研究以此問題意識進行學校行事之考察。其次,設定三種指標(自然和季節、教訓、忠君愛國),分析及考察校歌的歌詞內容。最後,本研究成果,可以確認透過學校行事和校歌的實踐,確實在同化教育扮演重要角色。

關鍵詞：學校行事、校歌、同化教育、初等教育

日本統治時代の台湾における学校行事 と校歌の一考察

申 育誠

東北大学教育学研究科博士課程後期

要 旨

本研究では統治初期から日本終戦まで 50 年間における初等学校の学校行事と校歌を調査分析する。はじめに、台湾の日本統治時代において、学校行事と校歌を通してどのような国民性を育成しようとしたのかを考察し、日本統治時代に展開された同化教育の内容を明らかにすることを目的とする。学校行事、特に朝会を初等教育にどのように位置づけるかという問題は、同化教育の実施上どのような意義があるのかという問題意識に立つての学校行事についての考察である。次に、三つの指標（自然と季節、教訓、忠君愛国）を設定した上で、校歌の歌詞の内容を考察し分析する。

本研究の結果、学校行事と校歌の実践は同化教育において確かに重要な役割を果たしていたことが判明した。

キーワード：学校行事、校歌、同化教育、初等教育